

※本コメントは、複数の部門に対して総括して書かれたものであり、特定の部門に対して書かれたものではありません

今回のショパン国際ピアノコンクール in ASIA でもたくさんの素晴らしい演奏を聴くことができました。これらの、時に非常に難しいプログラムを準備するために、若いピアニストのみなさんがたくさんの時間とエネルギーと才能を費やして努力されたことがよく伝わってきました。このような高度な芸術に心を注ぐ原動力となるものは、音楽への愛に違いありません。みなさんがこれから更に成長され、この芸術において更なる高みを追求される上で、そのような気持ちをずっと忘れずに持ち続けられるよう、心から願っています。

※本コメントは、複数の部門に対して総括して書かれたものであり、特定の部門に対して書かれたものではありません

みなさん、ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会へのご参加おめでとうございます！

世界中で大きな影響を引き起こしているコロナ禍という大変困難な状況下においても、今年もみなさんのしっかりと準備された素晴らしい演奏を聴かせて頂けたことをとても嬉しく思います。みなさんの才能と努力、それからこのような状況にも関わらずご尽力された先生方に心からの拍手を送りたいと思います。

私からのメッセージと致しまして、いくつか気づいたことをお伝えしたいと思います。まず初めに、どんなコンクールであっても参加する際に覚えておかなければならないのは、コンクールそのものが目的になってはいけない、ということです。コンクールというのは、あくまで自分とは違った視点や意見をもつ人たちと出会い、自分の考えや解釈を他者と共有し、時に自身を鼓舞したり自分の技量をチェックする方法でしかありません。真の目的は音楽や芸術、そして自身の成長でなければなりません。さまざまな経験を通して、自らの感受性や感情をより豊かにし、音楽への理解を深めましょう。

レパートリーに関しては、適切に賢く選び、自分にとって良い選択をすることが必要不可欠です。常に難曲に挑戦することが良いことだとは限りません。

ピアノ演奏全般にいえることですが、特にショパンを演奏する際には、下記のようなことに注意してみてください。

- ・自然な歌い方で、音楽が語りかけるように。旋律が横へ繋がっていくとイメージし、音楽的で自然な「呼吸」を意識すること。
- ・長いフレーズを作り出し、全てのモチーフやフレーズを形作ること。また同時に、まとまりとしての一体感も感じる。
- ・美しく、歌うように、多彩でよく響く気品のある音（レガートやベルカント唱法をイメージして）。
- ・形式、和声、音楽的なジェスチャー（音や声部の流れ・動きなど）など、音楽の構造を意識すること。
- ・作品の歴史や作品にまつわる秘話などについてリサーチするとともに、自分自身が聴衆と共有したいアイデアについても考えを深めること。
- ・曲の性格や特定のジャンルの作品の由来などを知ること。（特に踊りにおいては、その踊りが民族音楽なのか、宮廷舞踏なのか、あるいは国民的な音楽に基づくものなのかを理解することはとても重要です）。
- ・よいバランス（声部と声部のバランス、全体的な構成における様々な層のバランス、和声の中の音と音のバランスなど）。
- ・演奏の助けとなるような、よいペダルの使い方を工夫すること。また、ペダルの様々な使い方を研究すること。（良いペダルの使い方というのは、使用する楽器、その場所の音響、その瞬間に音楽に必要とされているものによります。）
- ・背中、肩、腕、前腕など体の一部または全部に余計な緊張感が入らないように。
- ・自分がやりたいことが実際に音として聞こえているかどうか、客観的に聴いてみる。
- ・ピアノを演奏している最中、自分も傑作の創造の過程に関わっているんだという喜びを感じる。

みなさんの益々のご発展をお祈り申し上げます。

※本コメントは、複数の部門に対して総括して書かれたものであり、特定の部門に対して書かれたものではありません

みなさんお疲れ様でした！ショパン愛好家のみなさんの技量に大変感銘を受けました。

- ・楽譜を正しく読みましょう：一部の演奏で、あちこちに重大な音の間違いが見受けられました。これは、版の違いについて述べているのではなく、基本的な和声やリズムの読み間違いについての問題です。
- ・音楽を解釈する上で最も重要な要素の一つは音の質です。歌うような音色を高く評価していたショパンの音楽では特に非常に重要です。ですから、フォルテで弾いているときでさえも、美しい音で弾けているかどうかよく注意してください。
- ・旋律と伴奏のバランス：伴奏が重くなりすぎて旋律を邪魔していることが度々見受けられました。
- ・ショパンの音楽で重要なレガートのアーティキュレーションが時折おろそかになっている演奏が見受けられました。
- ・コンクールへ向けての準備について：演奏する曲については、技術的な面だけでなく、芸術性や表現力という点からも、適切に選択・準備されなければなりません。時折、技術的にはよく弾けていても、音楽的には物足りない演奏もありました。

プロのピアニスト顔負けの素晴らしい演奏が聞けました。ただ中には、音楽を伝えようとするあまり、表現が誇張されたり、自分が陶醉してしまうような演奏もありました。シンプルに、ショパンの音楽をまず知ることが必要なのではと思います。

皆様大変一生懸命、熱心に取り組んでおられ、感服致しました。感性・知性・技術が見事に融合した素敵な演奏もありました。ルバートや **Tempo** 運びが不自然にならないように自然な流れを作る事が難しいなと思いました。ただ技術的にカッチリ、マッちょに弾いてしまわず、**Chopin** の心情を音にして伝えられるといいなと思う演奏もありました。楽譜を深く読み込む事は一生の課題ですね。

今回の当部門は特に優秀な人が多く、正直に言ってかなり驚かされました。なかでも注目されるべきことは、普通の音大生などをはるかに上回る才能の持ち主が大勢存在していた事実です。このことは、世の中がはっきりと変化していることを実感させ、これからどうなっていくのかという大きな期待を抱かせました。今後がんばってほしいと思います。

大変優れた演奏水準で、非常に感銘を受けました。難曲を立派に自分のものとして表現されたことに敬意を表します。理解力、テクニックともに充実していました。今後に楽しい素材も多く見出すことが出来ました。